

9月号は先天代謝異常症を特集しました。専門家として、但馬剛先生、内藤悦雄先生、湯浅光織先生、城戸淳先生、田中藤樹先生、伊藤哲哉先生、大矢寧先生、清水教一先生、高橋勉先生に、小児科医が日常診療の中で先天代謝異常症を見逃さないことの重要性についてご執筆いただきました。9つの特集記事を通読し、一般小児科医が銘記すべきと感じたポイントを整理してみました。

まず、多くの先天代謝異常症の症状あるいは検査所見が非特異的である点です。けいれん、意識障害、体重増加不良、精神発達遅滞、筋緊張低下・筋力低下、反復嘔吐、肝機能障害などです。日常診療の中での非特異的な症状・所見から先天代謝異常症を疑う習慣をつけたいと感じました。

次に、臨床的暫定診断の中に先天代謝異常症が隠れているという点です。急性脳症、発達遅延、乳幼児突発性危急事態（apparent life-threatening event：ALTE）あるいはbrief, resolved, unexplained event（BRUE）などでは必ず先天代謝異常症の可能性を考えるべきと痛感しました。

また、先天代謝異常症を見逃さないために鍵となるスクリーニング検査があるという点も重要です。血液ガス分析、血糖、アンモニア、乳酸・ピルビン酸はその代表です。一方、新生児マススクリーニングが万能というわけでもありません。新生児マススクリーニング非対象疾患も少なくないことも再認識

しました。

最後に、先天代謝異常症を疑った際には専門家に相談することをためらうべきではないという点です。生化学的検査、さまざまなモダリティの画像検査、分子遺伝学的検査などにより先天代謝異常症の迅速な確定診断が可能となっています。新しい治療法も多く存在します。しかし、一般小児科医にとっては、先天代謝異常症を確実に診断する（あるいは否定する）こと、そして適切な治療を行うことは必ずしも容易ではないと思います。

特集以外に、塩田勉先生には乳児健診で受けた質問に対してどう答えるべきかについて院内で定期的にディスカッションしてきたというお立場から、その議論の一部を紹介していただきました。乳児健診の実践の場で必ず役に立つ内容です。3つの症例報告、池山志豪先生による腹部大動脈縮窄症、宮澤拓哉先生によるパレコウイルス3型感染症、山路棟康先生による右踵骨髄炎はいずれも示唆に富み、その考察は日常診療に応用可能です。最後に、日本医科大学小児科学教室の先生方にアレルギーに関する最近の論文を紹介していただきました。

9月号も学びの多い「小児科」となりました。ご執筆いただいた諸先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

（高橋 孝雄）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第61巻 第10号 9月号
2020年9月1日発行（毎月1回1日発行）
定価（本体2,700円＋税）
年間購読料金
定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村 直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕
Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕
Fax 03(3813)0288
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。